

## 黙示録5章1-5節 「封印を解く子羊」ノパート①

### 1A 封印を解くにふさわしい方 1-7

1B どこにもいない、ふさわしい者 1-4

2B 勝利を得た小羊 5-7

### 2A 子羊への礼拝 8-14

1B 血によって贖われた者たち 8-10

2B 無数の御使いと被造物 11-14

## 本文

私たちは、前回、黙示録4章を見ました。天にある神の御座の幻です。神ご自身が着座しておられ、そこで、礼拝を献げる二つの存在がありました。24人の長老と四つの生き物です。そこで、神の聖さ、全能の力、そして主権をほめたたえています。私たちの世界がすべて神によって支配されていることを示しているものです。

しかし、私たちは、今、見ている世界が、神に願われているようになっていないのを見えていますね。「今なお私たちは、すべてのものが人の下に置かれているのをみてはしません。(ヘブル 2:8)」とありますが、神は元々、人をご自分のかたちに造られ、万物を支配するようにされておりましたね。今、神が支配しておられると感じる時もあります。例えば、すばらしい自然を見る時、それを感じます。また人が、正義と平和にかなった創造的な働きをしている時にも、神がそこにおられると感じますね。けれども、必ずしもそうではないものが非常に多いです。

それはとりもなおさず、アダムが罪を犯し、世がサタンの支配に入ったからです。だから、神はご自分の造られたものを、再びご自分のところに奪還し、回復させたいと願われています。これを、「贖い」と呼びます。元々は、買い戻すという意味ですが、一度、失ったものを、対価を払って取り戻すことです。5章は、その贖いを行われる方、キリストが御座に出て来られます。まず、5章全体を読みましょう。(本文を読む)

### 1A 封印を解くにふさわしい方 1-7

1B どこにもいない、ふさわしい者 1-4

<sup>1</sup> また私は、御座に着いておられる方の右の手に巻物を見た。それは内側にも外側にも字が書かれていて、七つの封印で封じられていた。

神への礼拝を四つの生き物と二十四人の長老が献げている時に、ヨハネは、その御座の右の手に巻き物があるのをみました。聖書において「右」は、権威や力を表しています。例えば、右の

座にキリストが着かれているという時は、父なる神の権威と主権が与えられて、その座に着いておられることを示しています。万物の支配者が御座におられて、その神の権威が右の手に、この巻物があります。そして巻物を7節で神がキリストに渡されます。イエス様は、「ヨハ5:27 また父は、さばきを行う権威を子に与えてくださいました。子は人の子だからです。」と言われました。

その右の手にある「巻物」であります。当時の書物は、今のような冊子ではなく、パピルスや羊皮紙を使った巻物でした。それに、「内側にも外側にも字が書かれていて」る、とあります。大抵、内側のみに文字が記されていますが、外側にも書き記されています。これらは神の言葉であり、神が地上に裁きを下す言葉であることが分かります。6章以降に、封印が解かれて、それで地上に裁きが降ります。同じように内側だけでなく外側にも文が書かれている巻物を、預言者エゼキエルが食べるように命じられています。エゼキエルは、その後、エルサレムに対する神の裁きを預言しました(2:9-10)。預言者ゼカリヤも、飛んでいる巻物の幻を見ました。そこには、神の呪いがありました。「5:3これは全地の面に出て行くのろいだ。盗む者はみな、一方の面に照らし合わせて取り除かれ、また、偽って誓う者はみな、もう一方の面に照らし合わせて取り除かれる。」これらの呪いを次の6章以降で読んでいくことになります。

そして、「七つの封印で封じられていた」とあります。封印とは、蠟などを垂らして印とするもので、後で「封印を解く」という表現が出て来ますが、日本の巻き物のような紐ではありません。蠟を垂らして、それが、手紙に封をする糊のような働きをしていて、巻き物を綴じます。そして蠟がまだ固まらないうちに、指輪にある印を押すことによって、その権利者を明らかにします。これが七つあります。神の完全数です。6章以降、これらの封印が解かれていくことによって、災いが地上に降る幻が展開します。第七の封印が解かれると、今度は七人の天使による七つのラツパがあります。そして第七のラツパが吹き鳴らされると、七人の天使による七つの鉢による災いが始まります。七による災いで、その七つ目においてさらに七つの災い、さらにその七番目の災いで、七つの災いが下るということです。神のご栄光を表す、完全な裁きを示しています。これと似たような神の裁きが、過去にありました。エリコに対する神の聖絶です。ヨシュアたちは、エリコの回りを一日に一周し、それを六日行ない、七日目は七周しました。

そして、これまで巻き物が封じられていたのですが、これから解かれます。黙示録の巻き物は、ダニエル書の巻き物の続きと言って良いかもしれません。ダニエルは、御使いから、ペルシア帝国から始まり、ギリシア帝国、そして終わりの時の世界戦争について長い預言を聞きました。そして、イスラエルが最後に滅ぼされそうになるが救われて、多くの者を義とした者が星のように輝くと預言した後に、こう言いました。「12:4 ダニエルよ。あなたは終わりの時まで、このことばを秘めておき、この書を封じておけ。多くの者は知識を増そうと捜し回る。」けれども、黙示録は、その封じられた書物、あるいは巻き物を開いたことを書き記しているのです。

したがって、イエス・キリストが来られたことによって、このダニエルに神が啓示された巻き物が、解かれることになるのです。黙示録は、その難解に見えるような内容から、封じられた書物なのだということで避けられる傾向にあります。イエス・キリストご自身はこれを開く、解くのだ、明らかにするのだと仰っておられるのです。私たちはキリストの弟子として、イエス様によって開かれるこれらの真理の奥義を知る祝福にあずからないといけません。イエス様は言われました。「マタイ 13:16-17 しかし、あなたがたの目は見えているから幸いです。また、あなたがたの耳は聞いているから幸いです。17 まことに、あなたがたに言います。多くの預言者や義人たちが、あなたがたが見ているものを見たいと切に願ったのに、見られず、あなたがたが聞いていることを聞きたいと切に願ったのに、聞けませんでした。」

<sup>2</sup> また私は、一人の強い御使いが「巻物を開き、封印を解くのにふさわしい者はだれか」と大声で告げているのを見た。

「強い御使い」が出て来ました。黙示録には、何度か、強い天使が出てきて、緊急性のある、重要な神の御告げを告げるのに用いられます。しかし、今ここで、この巻物を開く権利のある者が誰かいるのか、あらゆる所にこの声が届くように訴えています。

<sup>3</sup> しかし、天でも地でも地の下でも、だれ一人その巻物を開くことのできる者、見ることのできる者はいなかった。<sup>4</sup> 私は激しく泣いた。その巻物を開くにも、見るにも、ふさわしい者がだれも見つからなかったからである。

天にも、地にも、そして死後の世界である地の下にさえも、巻物を開くことのできる者がいませんでした。そしてヨハネは、激しく泣いています。ここで起こっていることは一体何なのでしょう？ここで私たちは聖書全体に貫かれている主題、「贖い」について知らなければいけません。

「贖い」というのは、先ほど言いましたように「買い戻す」という意味です。もともと自分のものであったのだが、売り渡されてしまいました。だから、自分のものだからそれを欲しいと主張するのですが、けれどもすでに売り渡されていますから、購入しなければいけません。自分の所有物でありませんが、代価を支払って再び自分のものとしします。これが「贖い」です。

モーセの律法において、貧しくなった人が、自分の相続地を売り渡さなければいけないことについて書いてあります。主は、アブラハム、イサク、ヤコブに、カナン人の地を与えると約束されましたが、イスラエル人が割り当てられた地を、お金がないという理由で手放してはいけません。レビ記 25 章 23 節には、「土地は、買い戻しの権利を放棄して売ってはならない。土地はわたしのものである。」と書かれています。そこで主は、貧しくなって自分の土地を売りに出した人は、代わりに近親者がそれを買い戻さなければいけないことを定めています。「25:25 もしあなたの兄弟が落

ちぶれて、その所有地を売ったときは、買い戻しの権利のある近親者が来て、兄弟の売ったものを買戻さなければならない。」ルツ記を思い出してください、ボアズがナオミのために、彼女の夫エリメレクの土地を買戻しました。そのように買戻します。このようにして、土地を贖う律法があります。

そして、その土地を買戻すことについて、買戻すことができるための条件を書き記されている証書があります。土地の購入証書です。それは買い取ることができる権利を持つ人が署名をして、それを封印します。そして、後で実際に買戻す時に、その購入証書の封印を、権利のある人が解いて、それで土地をその人のものにします。

このことが、エレミヤ書 32 章に書かれています。エレミヤが預言をしていたときは、ユダにいる人々がバビロンに捕らえ移されて、祖国を失う直前にありました。けれども、それは祖国を永久に失われるのではなく、いつかまた彼らのものとなるという神の約束を、エレミヤは語ります。彼は自分の従兄弟が、自分の畑を買ってくれ、あなたに買戻しの権利があるから、と言いました。それで、エレミヤは銀 17 シェケルを払いました。そして、土地権利書を土の器の中に入れる手続きを行ないました。その中で、主はエレミヤに一つのことを命じました。32章6節からです。「32:11-15 そして、命令と規則にしたがって、封印された購入証書と封印のない証書を取り、12 おじの子ハナムエルと、購入証書に署名した証人たちと、監視の庭に座しているすべてのユダの人々の前で、購入証書をマフセヤの子ネリヤの子バルクに渡し、13 彼らの前でバルクに命じた。14 『イスラエルの神、万軍の【主】はこう言われる。これらの証書、すなわち封印されたこの購入証書と、封印のない証書を取って土の器の中に入れ、これを長い間、保存せよ。15 なぜなら——イスラエルの神、万軍の【主】はこう言われる——再びこの地で、家や、畑や、ぶどう畑が買われるようになるからだ。』」このように、土地を買い取り、土地権利書を封印する手続きを行ないました。それを取り戻す時は封印を解いて、所有権を主張します。

そしてこれを、父なる神が、全世界に対して行なわれることなのです。父なる神が右手に購入証書を手にしており、この証書の書かれてある条件を満たす、買戻しの権利がある者が全世界に対する贖い、買戻しを行なわれるのです。それで、強い御使いが、誰がその封印を解く資格があるのかと叫んでいるのです。

世界を造られたのは、神ご自身です。そして神は人を造られて、人が神が造られた世界を支配、あるいは管理するように定められました。「創世 1:28 生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」ところがアダムが、悪魔の言うことに聞き従い、神が言われることに背きました。そのために、地がのろわれたものとなった、と神は言われています。つまり、人が神から任されて支配するところの世界が、悪魔に渡されてしまったということです。土地を、悪魔に売り渡してしまったのです。そのために、悪魔は、「この世を支配す

る者(ヨハネ 16:11)」「この世の神(2コリント 4:4)」と呼ばれているのです。

そしてイエス・キリストは、悪魔のものとなっている世界を、神のみもとに買い戻すために、贖うために、この世に来られました。その買い戻すための対価は、ご自分のいのちと、その流される血を代価とすることです。「マル 10:45 人の子も、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのです。」イエス様は公生涯を開始されるとき、荒野において悪魔から誘惑を受けました。悪魔は、この世のすべての国々とその栄華を見せて、「もしひれ伏して私を拝むなら、これをすべてあなたにあげよう。(マタイ 4:9)」と言ったのです。イエス様は、「この国々はあなたものではない。」などと反論されませんでした。なぜなら、事実、国々は悪魔のものだったからです。けれども悪魔は、十字架への道を歩まないで、今あなたのものになりますよ、と誘っているのです。しかし、イエスはその申し出を断られ、十字架への道を歩まれました。

こうしてイエスは十字架で、ご自分の血を流されて、その対価によって世界を買い取られました。それゆえ、6 節以降、黙示録ではイエス様は「子羊」と呼ばれます。子羊が屠られて、その血によって贖われることを律法は教えていますが、主はその血によって私たちを贖われます。けれども、その所有権をまだ行使しておられません。実は、悪魔は不法にこの世界を占拠しています。すべてが神のものなのに、悪魔が不正に支配しているのです。イエス様が血を流されてすでに贖い金が支払われた後は、なおさらのことです。

しかし、今、その購入証書である巻き物の封印を解いて、実際にこの世界を、主イエス・キリストのものにするのです。これが、黙示録の主題と言ってよいでしょう。キリストが、神の御子にふさわしく、すべての権威と主権を父なる神から任されて、神の国を治めるということが主題です。ですからこれから読む黙示録の話には、封印が解かれ、またラツパが吹き鳴らされた後などに、次のような賛美がささげられています。「11:15 この世の王国は、私たちの主と、そのキリストのものとなった。主は世々限りなく支配される。」「19:6 ハレルヤ。私たちの神である主、全能者が王となられた。」この地上に大患難が襲うのは、悪魔が行なっている不法な活動を中止させるためであり、悪魔がさばかれるためです。

確かに、終わりの時、患難の時は、神の地上に対する災い、裁きが完膚なきまでに遂行される時です。しかし、そこには積極的な意味があります。それは、悪魔が支配するこの世があり、そこには罪と不正が積みあがっています。何もしないのであれば、そのまま罪の中で滅んでいくだけです。悪魔にそそのかされるままに、自分の身をまかせていき滅びるだけです。ですから、その世から福音に応答する者たちを救い出し、そして世を裁いて滅ぼし、新しく世界をやり直すことを考えておられます。ちょうど、ノアの時代に水の裁きによって新しく始められたように。

例えば、これは、ある伝染病が一つのマンションに蔓延してしまったとしましょう。行政者は、そのマンションに人々が住み続ければ、人々はみな死に絶えることを知っています。だから新しく建物を造って、人々をそこに移り住ませ、その伝染病の菌が蔓延しているビルを破壊しようと考えました。けれども、住民は反対運動を起こします。「我々が住み慣れてきたこのビルを破壊するとは何事であるか！伝染病が蔓延しているなど、とんでもないことだ！」と。インチキの科学者が、そこは大丈夫だ、ずっと続くと吹き込んでいたからです。行政者は、そのビルを破壊する警告を出しても、彼らは断固として動こうとしません。行政者は、辛抱して待ちます。しかし、住居者たちは伝染病にどんどんかかって、間もなく死に絶えるのも分かっています。そこでその住居者もろとも、その建物を破壊します。新しい建物に移り住んだ人が、その住居で生活を楽しんでいます。

これと同じように、今の世界であり、罪と不法がはびこり、それが満ちていて、このまま生きていたら必ず罪の中で滅んでしまいます。それで、主は新しくご自分の国を造られます。そこに人々が入ることができるように、イエスを信じる者が新しく御霊によって生まれて、神の国に入れるようにしてくださっています。それで、彼らを新しい住居、つまり天に引き移していから、古い建物、今の世界を滅ぼされるのです。そのインチキの科学者は、悪魔です。今の世がいつまでも永らえることを願わせているのは、悪魔なのです。今の世において、自分の滅びの道に連れて行こうとしているだけなのです。ですから、私たちはキリストと、この方のもたらす新しい世界、神の国を待ち望みます。「ガラ 1:4 キリストは、今の悪の時代から私たちを救い出すために、私たちの罪のためにご自分を与えてくださいました。私たちの父である神のみこころにしたがったのです。」

ここで、ルツ記のことをもう一度、思い出しましょう。この話は、ルツがナオミの息子を夫として与えられ、けれども夫に先立たれてしまったことに端を発します。本来ならば、律法に従えば、ナオミの弟息子が、ルツと結婚しないといけません。「申 25:5 兄弟と一緒に住んでいて、そのうちの一人が死に、彼に息子がいない場合、死んだ者の妻は家族以外のほかの男に嫁いではならない。その夫の兄弟がその女のところに入り、これを妻とし、夫の兄弟としての義務を果たさなければならない。」けれども、もちろんナオミには、夫エリメレクに先立たれているし、たった今再婚して、男の子を生んだところで、その子が成人するまで待たないといけないという、途方もないことです。つまり、ルツ自身がやもめのままで、イスラエル人の間に住み、外国人として住むこととなります。それでもルツは、ナオミに対して、「あなたの民は私の民、あなたの神は私の神。」と決意を表し、いっしょに付いて行きました。

そこでボアズに会います。ボアズは、落穂拾いをしているルツに目を留めます。そして、彼女を守ります。ナオミは、ルツをボアズに妻として迎えてほしいと願いました。ボアズの妻となることによって、エリメレクの名を受け継がせるのです。それでボアズは、ルツを自分の妻とすることに決めました。そのために、エリメレクの畑を買い取ることに決めたのです。ナオミが貧しく、亡き夫エリメレクの土地を売らないといけないけれども、それを近親者として買い取ります。けれども、エリメ

レクの名を残すために、さらに加えてルツを自分の妻としなければならないのです。ボアズよりも、もっと近い親戚がいたのですが、ルツがいるということが分かったら断りました。そうしたら、買い取った土地だけでなく、自分の相続地までがエリメクの名がついてしまいます。しかし、ボアズはこれが本望でした。ルツを愛し、彼女を自分のものとするために、自分の相続地を損なっても、それがエリメクの名がついても、構わなかったのです。

これが、教会とこの世界との関係です。主は、ご自分のものとして父なる神から与えられた教会を、世において見たので、この教会をご自分の妻とするために、世界を買い取られるのです。「マタ 13:44 天の御国は畑に隠された宝のようなものです。その宝を見つけた人は、それをそのまま隠しておきます。そして喜びのあまり、行って、持っている物すべてを売り払い、その畑を買います。」畑が世界です。そこに、ご自分の宝を見つけました。教会です。この教会を自分のものとしたために、ご自身のいのちを代価として支払い、その畑全体を買い取られたのです。

そして次回見ますが、御座の周りにいる長老が、父から御子に巻物が渡されるのを見ます。ルツ記においても、ボアズがエリメクの土地を買い取る儀式を長老たちが目撃します。そしてルツがボアズの妻となるのも見届けます。証人となったのです。同じように、天の御座の周りにいる長老たちは、世界がキリストに買い取られるのを目撃する証人として立たせられているのです。

ところで、封印を解く人がおらず、ヨハネは激しく泣いています。むせび泣いています。それはこの世界の中で、だれも世界を贖うことができないことを発見します。政治を変えても、全く同じ状態、いやもっと悪くなりました。科学が発展しても、人々を幸せにしませんでした。芸術も同じです。そして人々はスピリチュアルなものをもとめます。それは霊の世界、天や悪魔、地の下の世界です。そうした目に見えない存在であっても、人々を贖うことはなかったのです。多くの人が、こうしたものを世の救いとして期待します。しかし、だれも世界を救うことはできなかったのです。

## 2B 勝利を得た小羊 5-7

<sup>5</sup>すると、長老の一人が私に言った。「泣いてはいけません。ご覧なさい。ユダ族から出た獅子、ダビデの根が勝利したので、彼がその巻物を開き、七つの封印を解くことができます。」

二十四人の長老の一人が、ヨハネに語ります。だれ一人として、世の贖いを成し遂げる人はいないが、ただ一人おられるのだ。それが、「ユダ族から出た獅子、ダビデの根が勝利した」とのことです。これは、もちろんキリスト・イエスのことです。

主は、世を救う方として、初めに、ヤコブの十二人の息子の一人、ユダから出る王が救うことを教えられました。間もなく世を去るヤコブが、力を振り絞って、息子たちのために預言をしました。終わりの日の預言です。ユダに対しては、ユダ族の獅子とは、ヤコブがユダに、国々の民を従わ

せる王でありメシアが出てくることを預言したところから来ています。「創世 49:9-10 ユダは獅子の子。わが子よ、おまえは獲物によって成長する。雄獅子のように、雌獅子のように、うずくまり、身を伏せる。だれがこれを起こせるだろうか。10 王権はユダを離れず、王笏はその足の間を離れない。ついには彼がシロに来て、諸国の民は彼に従う。」ここの「シロ」はメシアのことです。王となるものが来て、そこからメシアが現れる、世の救い主が来られるということです。

そして、ボアズとルツから生まれた子の、さらにその子がエッサイです。エッサイの末の子に、ダビデが現れました。ダビデは、自分の世継ぎの子が、永遠の国を、神の国を受け継ぐことを約束されました。イザヤは、エッサイの根から出てきた新芽として言い表します。「11:1-2 エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。2 その上に【主】の霊がとどまる。それは知恵と悟りの霊、思慮と力の霊、【主】を恐れる、知識の霊である。」御霊に満たされて主は、公生涯を始められました。そして、この方は再来し、世界を正義と真実で統治されます。続きを読みます。「11:3-5 この方は【主】を恐れることを喜びとし、その目の見るところによってさばかず、その耳の聞くところによって判決を下さず、4 正義をもって弱い者をさばき、公正をもって地の貧しい者のために判決を下す。口のむちで地を打ち、唇の息で悪しき者を殺す。5 正義がその腰の帯となり、真実がその胸の帯となる。」確かに、この方が世界を贖われ、神に世界を買い戻されるのです。

そして 6 節以降に、有名な預言、弱肉強食の動物界にも平和が来ることの預言があります。「6 狼は子羊とともに宿り、豹は子やぎとともに伏し、子牛、若獅子、肥えた家畜がともにいて、小さな子どもがこれを追って行く。7 雌牛と熊は草をはみ、その子たちはともに伏し、獅子も牛のように藁を食う。8 乳飲み子はコブラの穴の上で戯れ、乳離れした子は、まむしの巣に手を伸ばす。」確かに、世界はキリストを王としたところに、神のもとに回復されるのです！

今晚は、5 節までにしたいと思います。6 節以降に、御子が父なる神から巻物を受け取る場面を見ていき、その後で、すべてが神を賛美し、礼拝するところを見ていきます。